

山口短期大学 自己点検・評価報告書

【数理・データサイエンス・A I 教育プログラム】

令和8年6月

令和8年度 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 自己点検評価
令和8年6月

1. はじめに

本学では、令和3年度に「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を、児童教育学科および情報メディア学科の全学生に対して実施することを開始し、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進センター(構成員を表1に示す)を設置するとともに、本教育プログラムの効果的な普及を目指すこととした。

令和8年度数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進センター構成員

表1 構成員(五十音順)

入江 良英
柴田 道信
百武 靖悟
村上 幸生
横山 修
古谷 和明
山田 祐貴

令和7年度はプログラム対象科目である「データサイエンス入門(表2)」については後期の開講であり、防府キャンパスにおいては15回の対面授業が実施された。なお、博多キャンパスの学生に対してはオンラインによる同時開講とし、できるだけ多くの学生が受講できるように配慮した。

また、本学FD委員会とも連携し、授業アンケート等を実施し、これらの結果に基づきさらに今後の授業改善等に生かす体制も整えている。

以下に、令和7年度に実施した、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける自己点検評価について報告する。

表2 プログラム対象科目

授業科目名	対象学科	単位数	年次	期別
データサイエンス入門	児童教育学科 情報メディア学科	2単位	1年次	後期

2. 自己点検・評価

(1) 授業実施状況

・点検・評価の観点

「データサイエンス入門」の授業内容についてはシラバスに示す通り、「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」が公表しているリテラシーレベルの

モデルカリキュラムに沿った内容となっている。この授業内容の詳細については、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進センターにおいて検討している。

・現状

授業内容については、モデルカリキュラムに沿っており、大幅な改善は必要ないと考えられる。なお、演習を伴う授業の場合については、キャンパス間をオンライン (Zoom) で接続する授業形態のため、実施方法については、対面授業で実施できる回数をキャンパス間で同等とし学習成果を修得しやすいように実施していく。

(2) プログラムの履修・修了状況、学習成果に関する事項

・点検・評価の観点

本プログラムは全学に向け開講している。

児童教育学科については幼稚園教諭、小学校教諭等の免許状取得希望者は必修とし、情報メディア学科は卒業必修とし、できるだけ多くの学生が履修するようにしている。

・現状

表3 令和7年度履修・修了者

学科・専攻	令和6年度				令和7年度						履修率 (履修者数/入学定員)	
	履修者数		修了者数		履修者数		修了者数		履修者数 合計	修了者数 合計		
	防府	博多	防府	博多	防府	博多	防府	博多			令和6年	令和7年
児童教育学科 初等教育学専攻	3	9	2	6	7	7	6	7	14	13	40%	70%
児童教育学科 幼児教育学専攻	16	0	13	0	22	0	10	0	22	10	32%	44%
情報メディア学科	6	48	7	46	5	45	4	30	50	34	135%	125%
計	25	57	22	52	34	52	20	37	86	57	68%	78%

注) データサイエンス入門は1年後期で履修、小学校・幼稚園教諭を取得する者及び情報メディア学科は必修

履修率については、全体で前年度から10ポイント上昇した。学科・専攻別では情報メディア学科で再履修者が多く100%を超え、幼児教育学専攻においてはリカレント学生が多く50%を下回っている。修了者率については、全体では令和6年度から大幅に減少している。これは幼児教育学専攻と情報メディア学科履修者の修了者数が減少したことによるものである。

現在、児童教育学科では免許取得者は必修、情報メディア学科は卒業必修としているが、履修率は入学定員に対する履修者の割合であることから、リカレント学生にも

データサイエンスの必要性を周知しさらに履修率の向上を目指したい。

(3) 学生アンケート等を通じた、学習の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項

・点検・評価の観点

本学FD委員会と連携し、授業アンケートを実施した。

・現状

授業内容の定着を図ることを目的として、Google Classroomにて毎回課題を提示した。なお、重要と思われる授業回については、上記システムにより課題を提出させた。

(4) 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

・点検・評価の観点

前期・後期始めの履修オリエンテーションにおいて、児童教育学科では教員免許取得者は必修、情報メディア学科では卒業必修である旨の説明を行っている。なお、リカレント学生に対し、本プログラムの受講を引き続き推奨する必要がある。

・現状

履修率向上に関しては、必修科目となる学生は100%であるが、それ以外の学生の履修率に関しては、特にリカレント学生の履修率が低い現状にある。((3)の修了者数一覧参照)

履修オリエンテーション等でデータサイエンスの重要性について説明し、リカレント学生も積極的に受講できる体制を整える。

(5) プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項

・点検・評価の観点

教育プログラムは令和3年度からの実施であり、本プログラム受講者が就職等で社会に出ており、企業等からの評価を得ている。

・現状

本プログラム修了者が就職後に企業等でどのように評価されているか、本学キャリアセンターが実施しているアンケートに本プログラムについての設問を追加する予定である。

(6) 産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容手法に関する事項

・点検・評価の観点

本プログラムについて、産業界からの視点等を含めた意見を聴取する。

- ・現状

今後の取り組みとして、上述のように企業対象のアンケートに本プログラムについての内容を追加したいと考えている。(就職担当教員と連携の上で、アンケートを準備する予定である)。

3. (1) から (6) の課題

- ・(5) に関連して、企業からの評価アンケートを従前実施していなかったが、令和8年度から実施する予定である。
- ・(6) に関連して、企業担当者が来校した際も、評価を聞き取る予定である。